

平成22年（2010年）度

# 事業報告書

自 平成22年（2010年）4月1日

至 平成23年（2011年）3月31日

財団法人 アジア学生文化協会

# 平成22年(2010年)度 事業報告書

(2010年4月1日より2011年3月31日まで)

財団法人 アジア学生文化協会

本協会の平成22年(2010年)度事業を以下の通り報告します。

## I. 総務事項報告

### 1. 理事会および評議員会

(1) 理事会を次のとおり開催した。

#### 第1回定時理事会

日時 平成22年5月25日(火) 午後1時半より

場所 東京都千代田区一ツ橋 2-1-1

如水会館

議題 第1号議案 平成21年度事業報告

第2号議案 平成21年度決算報告

第3号議案 その他の協会運営について

①寄付行為の改正について

②公益法人制度改革への対応及び日本語コースの校舎建設について

#### 第2回定時理事会

日時 平成23年3月24日(木) 午後1時半より

場所 東京都文京区本駒込 2-12-13

アジア文化会館

議題 第1号議案 平成23年度事業計画

第2号議案 平成23年度予算

(2) 評議員会を次のとおり開催した。

#### 第1回定時評議員会

日時 平成22年5月25日(火) 正午より

場所 東京都千代田区一ツ橋 2-1-1

如水会館

議題 第1号議案 平成21年度事業報告

第2号議案 平成21年度決算報告

第3号議案 その他の協会運営について

①寄付行為の改正について

②公益法人制度改革への対応及び日本語コースの校舎建設について

#### 第2回定時評議員会

日時 平成22年3月24日(木) 正午より

場所 東京都文京区本駒込 2-12-13

アジア文化会館

議題 第1号議案 平成23年度事業計画

第2号議案 平成23年度予算

第3号議案 補欠理事の選任

## II. 事業報告

### 1. 学生宿舎の運営

①本協会所有の施設新星学寮およびアジア文化会館並びに賃借による富士前寮、染井寮、やまぶき寮、日暮里寮、巣鴨寮を昨年引き続き運営した。また、日本語生の増加に伴い、寮に入居できない学生から

の不満が多いため、田端寮（ワンルームマンション型、13室）及び駒込寮（ワンルームマンション型、33室）を開設した。

②一方、アジア文化会館は竣工から50年を迎え、施設の老朽化が一段と進行し、会館の校舎部分の建て替え（耐震構造）の検討を行った。

③寮生と地域住民との交流も近年欠かせないものになっており、文京区及び荒川区の国際交流活動に継続して協力した。

④会館開設当初から食堂を運営してきたが、長年にわたり、利用者の減少が続く、赤字が拡大し、協会運営に支障をきたすようになったため、2010年5月をもって閉鎖した。

⑤泰日工業大学（TNI）学生の短期日本語コース18人の受け入れに伴い、宿舎を確保した。

⑥新規日本語生の減少に伴い当協会日本語コース卒業生の継続宿泊の受け入れを積極的に開始した。

⑦2011年3月11日の東日本大地震・津波・原発事故発生により、留学生の急遽帰国。そのため次年度宿泊予約のキャンセルが大量に発生した。

### 宿舎運営の概況

	施設名（定員）様式	所在地及び特記事項
1	新星学寮（旧至軒寮） （11名） モルタル2階建	東京都文京区本郷6-6-11  1932年「人間鍛錬」の場として本協会の創設者故穂積五一氏（初代理事長）により開設され、戦後日本人と留学生の共同生活の場に転換された学生寮。一貫して寮生の自治で運営され、本協会設立の母体となったもの。 今年度も留学生、日本人学生及び協会職員による共同生活が営まれ、12月万座温泉にてスキーの合宿旅行を行ったが、3月は、震災と原発事故で、中止せざるを得なかった。
2	アジア文化会館 （120名） 鉄筋コンクリート 地上5階建	東京都文京区本駒込2-12-13  1960年各界の協力により建設されたアジア・アフリカ・ラテンアメリカの留学生・技術研修生及び日本人学生の共同生活と学習のための会館。1981年度まで姉妹団体（財）海外技術者研修協会と共同運営してきたが、82年度より当協会の独自運営となる。  1. 在館学生（留学生及び日本人学生等）の自治的共同生活を軸に運営され、本年も秋期（10月）に、学生自治会が中心となり、留学生と地域住民との交流を目的とした「インターナショナルフェスティバル（ABK秋祭り）」を実施した。また、会館内の自治会活動としては、留学生同士の交流を目的とした交流会「ハナ金会」、「新入生歓迎会」を実施した。 2. 長く続いてきたABKCA（会館自治組織）制度運営のための会費徴収業務を廃止するとともに、制度も廃止した。 3. 会館恒例行事として盆踊り、焼肉忘年会、餅つき大会を実施した 4. ゴキブリ駆除による衛生面での改善とインターネットの回線充実により、快適な生活環境作りを図った。 5. 食堂の利用者の減少に伴い大幅な赤字解消を長年にわたって続けてきたが、2010年5月をもって廃止した。 6. 文京区の文京アカデミー主催による「国際交流フェスタ」に出店し、協会事業のPR・紹介を行った。 7. 昨年に続き、留学生団体、非営利団体等に研修室および事務所賃貸等の便宜を提供し、施設の有効活用を図った。
3	富士前寮 （51名） 鉄筋コンクリート 7階建	東京都文京区本駒込5-26-4  2001年3月より賃借して開設。主に当協会の留学生日本語コースの女子留学生のための寮。 寮運営に関して、学生から高い評価を継続して得ている。また、女子寮としての安全・安心が確保できる寮の環境整備を図った。

4	染井寮 (13名) 鉄筋コンクリート 3階建	東京都豊島区駒込 3-25-7  2002年10月より賃借して開設。当協会の留学生日本語コースの女子留学生のための寮。
5	やまぶき寮 (29名) 鉄筋コンクリート 3階建	東京都荒川区荒川 2-58-10  2004年3月に荒川区より賃借して開設。当協会の留学生日本語コース生及び一般留学生が入居している。町内会のお祭りや荒川区総合震災訓練に参加するなど地域との交流を図った。また、荒川区国際交流協会の活動に協力した。
6	日暮里寮 (9名) 鉄筋コンクリート 5階建 (内3~5階)	東京都荒川区東日暮里 2-45-12  2004年3月に荒川区より賃借して開設。東京大学等の留学生を中心に入居。地元住民との交流会を開くなど地域との国際交流を図っている。
7	巣鴨寮 (15名) 鉄骨造 陸屋根 5階建 (内3~5階)	東京都豊島区西巣鴨 2-6-12  2009年3月より民間の社員寮を賃借して、日本語生のための宿舎11室(ワンルームマンション型)を確保し、開設した。また、宿舎不足解消のため大部屋(4人同居)を開設した。
8	田端寮 (13名) 木造 2階建て	東京都北区田端 3-3-2  2009年9月より民間アパートを賃借して、日本語生のための宿舎13室(ワンルームマンション型)を確保し、開設した。
9	駒込寮 (33名) 鉄筋コンクリート 7 階建	東京都豊島区 1-36-6 プレzzo駒込  2009年9月より民間アパートを賃借して、日本語生のための宿舎33室(ワンルームマンション型)を確保し、開設した。
	合計9寮 (294名)	

## 2. 日本語教育事業 日本語コースの運営

2010年度は470名の留学生を受け入れた。受入れた留学生の内、214名は大学・大学院・専門学校等に進学、日本国内就職5名、帰国等107名、114名が新年度も継続して学習を行っている。また、この他に28名の短期コース留学生、2名の企業研修生を受け入れた。さらに、グローバル30による明治大学との連携により、今年度は日本語分野でも連携事業を進め、日本語講師を派遣するなどした。

### 1. カリキュラム

#### ① 留学生日本語コース大学進学準備課程 (修業期間1年・1年半)

文部科学省から準備教育課程として指定を受けており、マレーシアや香港など母国での中等教育課程の修了が11年未満の学生も、この当該課程を修了することで日本の大学や専門学校への受験資格を得ることができる。日本語授業の他に英語や数学等の基礎教科の授業が必修科目となっている。

日本語授業合計	830 時限 / 1 年課程	1,330 時限 / 1 年半課程	
大学進学専攻 (文系) 基礎教科		大学進学専攻 (理系) 基礎教科	
英語	92 時限 / 1 年課程または 1 年半課程	英語	24 時限 / 1 年課程または 1 年半課程
社会	118 時限 / "	数学	108 時限 / "
数学	46 時限 / "	物理	62 時限 / "
		化学	62 時限 / "
基礎教科合計		基礎教科合計	
	256 時限 / 1 年課程または 1 年半課程		256 時限 / 1 年課程または 1 年半課程

② 大学進学日本語課程（修業期間1年・1年半・2年）

中国や韓国など母国での中等教育課程の修了が12年以上ある学生が大学受験準備をするために設置されたコース。日本語授業は必修科目であるが、基礎教科は進学を希望する大学の受験科目に合わせて選択して勉強することができる選択科目となっている。

日本語授業合計		830 時限／1 年課程	1,330 時限／1 年半課程	1,600 時限／2 年課程
大学進学専攻（文系）基礎教科		英語 92 時限／1 年課程または 1 年半課程	社会 118 時限／	数学 46 時限／
			”	”
			”	”
基礎教科合計		256 時限／1 年課程または 1 年半課程		
大学進学専攻（理系）基礎教科		英語 24 時限／1 年課程または 1 年半課程	数学 108 時限／	物理 62 時限／
			”	”
			”	”
基礎教科合計		256 時限／1 年課程または 1 年半課程		

③ 専修日本語課程（修業期間1年・1年半・2年）

日本で大学院等へ進学するための進学準備講座や、日本国内または母国で日系企業への就職を考えている方のための就職準備日本語講座など、様々な日本語科目が設置されており、学生の希望に合わせて、日本語科目などを選択して勉強できるコース。

日本語授業合計	1,000 時限／1 年課程	1,500 時限／1 年半課程	2,000 時限／2 年課程
---------	----------------	-----------------	----------------

## 2. 学生受入

① 定員

留学生日本語コース大学進学準備課程	120名
大学進学日本語課程	100名
専修日本語課程	180名
合計	400名

② 2010 年度 国・地域及び男女別在学人数

(2009 年 10 月期生からの継続生、中途退学者、短期コース生等を含む受入総数)

国・地域	男	女	合計	国・地域	男	女	合計
中国・台湾	47	74	121	モンゴル	0	2	2
マレーシア	61	44	105	カナダ	1	1	2
中国	22	48	70	日本	2	0	2
香港	23	26	49	ミャンマー	0	1	1
タイ	17	32	49	中国(マカオ)	0	1	1
韓国	20	25	45	アメリカ	1	0	1
インドネシア	3	8	11	ニュージーランド	1	0	1
ベトナム	3	0	3	カンボジア	1	0	1
シンガポール	0	3	3	合計	205	265	470
トルコ	3	0	3				

③ 各種の学生受入プログラム

A. 外国政府派遣留学生の受入

派遣元	2010 年度受入	目標進路	受入開始
タイ	6 名	高校進学	1996 年 10 月
インドネシア パプア州政府	5 名	大学進学	2006 年 4 月

B. 民間奨学金団体等派遣制度による受入

派遣元・派遣制度	学生の国籍	2010年度受入	目標進路	受入開始
ペトロナス/三菱奨学金派遣制度	マレーシア	11名	大学進学	2003年10月
ABK 渡日前奨学金支給予約制度	中国	1名	大学進学	2004年10月
財団法人 ローラー-米山記念奨学会	ベトナム	1名	大学院進学	2010年4月
日本トルコ育英会	トルコ	2名	大学進学	2001年10月
財団法人マブチ国際育英財団	モンゴル	2名	大学進学	2005年4月

C. 企業研修生の受入

企業名	学生の国籍	2010年度受入	受入開始
株式会社 東芝	タイ	2名	2002年2月

D. 2010年度短期コース

コース名	期間	参加者出身国・地域	人数
泰日工業大学 日本短期留学コース	2010年4月-5月	タイ	18人
夏期日本短期留学コース	2010年8月-9月	台湾	10人

④ 明治大学との連携プロジェクト（日本語分野）

プロジェクト名	期間	概要
明治大学日本語入門講座 (生田校舎)	2010年10月-12月	明治大学大学院で開講された大学院生のための日本語入門講座。日本語講師を派遣。
明治大学論文指導講座 (和泉校舎)	2010年10月-2011年2月	明治大学大学院で開講された大学院生のための論文の書き方指導講座。日本語講師を派遣。

### 3. 学生進路等の状況

#### ① 2010年度 在学生の人数および進路一覧

国・地域	大学院		大学学部		専門学 校等	日本国 内 就職	帰国 その他	2011年 度 継続	計
	国公立	私立	国公立	私立					
中国・台湾	6	9	0	7	31	3	31	24	111
マレーシア	0	1	10	33	12	0	14	35	105
中国	5	5	9	21	4	0	6	20	70
香港	1	1	1	6	7	1	18	14	49
韓国	1	2	1	10	4	0	20	7	45
タイ	0	0	0	5	6	1	9	8	29
インドネシア	0	2	2	3	1	0	1	2	11
ベトナム	0	1	0	1	0	0	1	0	3
シンガポール	0	0	0	0	1	0	1	1	3
トルコ	0	0	0	1	0	0	2	0	3
モンゴル	0	0	1	1	0	0	0	0	2
カナダ	0	0	0	0	1	0	1	0	2
日本	1	0	0	0	0	0	0	1	2
ミャンマー	0	0	0	0	0	0	1	0	1
中国・マカオ	0	0	0	0	0	0	0	1	1
アメリカ	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	0	1	1
カンボジア	0	0	0	0	0	0	1	0	1
小計	14	21	24	88					
合計	35		112		67	5	107	114	440

\*在学生の人数には、短期コース生、企業研修生は含まない。

\*専門学校等には、専門学校他に、高等専門学校、高等学校、各種学校等への進学者を含む。

#### ②推薦入学

区分	推薦対象校	進学校数	進学人数
大学学部	明治大学、立命館大学、東京農業大学、龍谷大学、東洋大学、東京経済大学、東京情報大学、文化女子大学、学習院女子大学、亜細亜大学、大東文化大学、明海大学、文教大学、四日市大学、尚美学園大学、和光大学、武蔵野大学、東京経営短期大学、（全18校）	8校	10名
大学院（修士）	神奈川工科大学大学院（1校）	0校	0名
合計		8校	10名

#### 4. 受給奨学金

奨学金名称	金額・期間等	人数
高山国際教育財団奨学金	30,000 円/月×12 ヶ月	2
私費外国人留学生学習奨励費(留学ビザ)	48,000 円/月×12 ヶ月	3
私費外国人留学生学習奨励費(就学ビザ)	48,000 円/月×12 ヶ月	8
私費外国人留学生学習奨励費(予約制度)	48,000 円/月×12 ヶ月	7
共立メンテナンス奨学金	60,000 円×12 カ月	1
溝上泰子記念東南アジア文化奨学金	200,000 円 1 回給付	2
合 計		23 名

#### 5. 国際理解教室等への協力

近隣の小中学校等の要請に基づき、日本語コース生を国際理解教室等に派遣したり、また当会館に来館してもらい、交流をした。

実施年月	学校名	地域	交流会	派遣/来校	日本語コース参加者
2010 年 12 月	東京大学大学院	文京区	交流	派遣	59 名
〃 12 月	昭和小学校	文京区	国際交流会	派遣	57 名
2011 年 1 月	第一中学校	文京区	国際理解教室	派遣	19 名
〃 2 月	長須小学校	茨城県	交流会	来校	18 名
〃 2 月	跡見学園女子大学	文京区	交流授業	派遣	35 名
〃 2 月	跡見学園女子大学	文京区	交流授業	派遣	78 名
〃 2 月	高島第五小学校	板橋区	国際交流会	派遣	16 名
〃 2 月	小石川中等教育学校	文京区	文化交流会	派遣	6 名
合計					288 名

#### 6. その他

(1) 韓国の時事日本語社(出版社)からの依頼により、韓国で実施する日本語能力試験N4レベル模擬試験用の問題を作成した。

(2) 台湾の大新書局(出版社)と「日本語能力試験模擬問題N4レベル」および「日本語能力試験模擬問題N5レベル」の出版について契約を締結した。

#### 3. アジア教育交流事業

##### 1) アジアセミナー事業

日本とアジアの交流・相互理解を促進するため、主に日本人を対象としたアジア各国語講座や各種セミナーを開設するとともに、当協会の多文化環境を活かした翻訳、通訳、講師派遣等の事業を実施した。

##### ① アジア各国語語学講座等

a) タイ語、中国語、韓国語、ベトナム語、フィリピン語、広東語、インドネシア語の7言語を入門から上級までレギュラーコースとして、計97コース開講した。

(1回/週×12回/コース。中国語は1回/週×16回/コース。参加者数によって回数、時間数を調整)

講 座	コース数	受講者数
韓国語	25	103
中国語	24	116
ベトナム語	18	78
フィリピン語	7	37
広東語	6	16
インドネシア語	3	12
タイ語	42	216
合 計	125	578

b) 各国語プライベートレッスン、グループレッスンを下記の通り実施した。

プライベートレッスン	実施数 (回)	受講者数
韓国語	20	18
中国語	1	8
広東語	26	1
ベトナム語	50	10
タイ語	61	9
合 計	158	46

②タイ語語学留学生の募集、派遣

タイ国TPA(泰日経済技術振興協会)附属語学学校 1年コース及び実用タイ語会話4ヵ月コースの語学留学生を募集、派遣した。

1年コース

学習期間	2010年4月より1年間
授業時間数	1000時間(1日5時間:6ヶ月、1日4時間:11ヶ月)
受講者数	6名

実用タイ語会話4ヵ月コース

学習期間	2010年4月より年3回開催(前期2ヵ月、後期2ヵ月)
授業時間数	200時間(2.5時間/日×5日/週×8週×2期(前期・後期))
受講者数	3名

③アジア各国語の通訳・翻訳事業を実施した。

④公開講座、交流会を下記の通り実施した。

座 名	実施数 (回)	受講生数(名)
韓国語公開講座	5	29
中国語公開講座	5	25
広東語公開講座	1	5
ベトナム語公開講座	5	47
フィリピン語公開講座	2	9
タイ語公開講座	7	57
合 計	25	172

2) 留学生支援事業

1980年1月より留学生相談室を設置し、留学生の個別相談と問題の解決に取り組んできた。留学生数が10万人を越え急増した2005年度からは、留学生および留学生受入れ教育機関、国際交流団体等に対する情報提供支援として、インターネット及び出版等による情報提供事業を実施している。同時に、長年にわたり蓄積された留学生交流のノウハウを活かし、教育サービス、調査等のコンサルティング事業を実施した。

事業名	内 容
①インターネットによる情報提供	i) 日本留学案内 Web サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」を(株)ベネッセコーポレーションとの共同運営とし、ホームページデザインの全面的な改定を行った。留学生のための大学学部案内データベース情報(日・英2ヵ国語版)を更新した。日本全国の大学学部733校、短期大学(371校)にIDパスワードを発行、web上で入試に関する調査を実施し、大学504校(68.7%)、短大120校(32%)からの回答を得、情報を更新した。

	<p>ii) 「最新情報ページ」を年 12 回更新し、留学生、教育交流関連のトピック、イベント等を掲載した。また、より分かりやすいガイドンスページとして動画による「新規来日時の手続き案内」を構築した。</p> <p>iii) 留学生、留学交流、国際教育業務関係者に向け、最新のトピックを掲載したメールマガジンを年 14 回(臨時号含む)発行した。</p> <p>発送数：4月号 1,880 通、5月号 1,880 通、6月号 1,883 通、7月号 1,889 通、8月号 1,887 通、9月号 1,847 通、10月号 1,847 通、11月号 1,851 通、12月号 1,851 通、1月号 1836 通、1月臨時便 1,836 通、2月 1,842 通、2月臨時便 1,842 通、3月号 1,884 通 3月臨時便 2 回(東日本大震災関連) 1,839 通、1819 通。</p> <p>2011 年 3 月 11 日東日本大震災関連における外国人のための情報を臨時便として 2 回発行した</p> <p>今年度は WEB サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」の生活案内に、来日当初の分かりやすいガイドンスページとして動画による「新規来日時の手続き案内」を構築した。これにより留学生および地域住民としての外国人の方々へのアピールが増し、当サイトの有用性の向上につながった。</p>
②調査・出版による情報提供	<p>インターネット「JAPAN STUDY SUPPORT」の大学学部、短期大学案内調査資料を基に、書籍「私費外国人留学生のための大学入学案内 2011 年度版」を編集・出版し、凡人社から販売した(日本学生支援機構監修)。</p>
③教育交流コンサルティング事業	<p>i) 明治大学および当協会、ベネッセ(株)、(株)JTB 法人東京の四者は、国際化拠点整備事業(グローバル 30) 連携に向けた共同研究に関する覚書を締結(2009 年 6 月)した。同覚書に基づき以下の事業を実施した。</p> <p>①明治大学に対する留学生受入れコンサルティングサービス ②留学生情報ポータルサイト「JPSS」のベネッセ(株)との共同事業への移行</p>
④各種関連団体との連携	<p>ABK 周辺の市民ボランティア「ABK 留学生友の会」、東京都国際交流委員会等の団体が実施する諸事業に場所提供、人員派遣等で連携協力した。</p>

#### 4. 広報誌『月刊アジアの友』の編集・発行事業

『月刊アジアの友』は、留学生関連の記事を掲載するとともに、留学生及び留学生交流に必要な情報を留学生及び OB・OG 並びに当協会会員をはじめ関係諸機関と広く日本人に提供し、留学生及び OB・OG に資すると共に、日本人には、留学生と彼らの母国、特にアジア諸国について理解を深め、留学生受入れ制度の改善と相互交流を促進する目的で、当協会設立以来継続発行している。今年度は、財政的な理由から発行回数、発行部数を減じ、かつ海外への送付を中止した。なお、海外の読者には、アジア文化会館同窓会ホームページから閲覧できるように対応した。機関誌の名称は、月刊を除き、『アジアの友』に。縮小 B5 判 24 頁～36 頁を、隔月刊・偶数月月末、年 6 回、各 1,200 部を発行した。購読料 3,000 円/年。但し、会員には無料頒布した。

## 5. 協会創立 50 周年記念事業委員会

当委員会は、2007 年の協会創立 50 周年記念行事とアジア文化会館の建替え等、次の時代の当協会事業を支える基盤整備に関する中長期計画の策定と実施のため 2005 年 2 月に協会内に設置、以後 5 年間(2010 年度いっぱいまで)での任務達成を目指してきた。本年度は、日本語コースの学校法人化の具体化を進め、「三役会議」(理事長、常務理事、事務局長)及び定例の運営委員会の組み合わせで、調査・立案・検討等、実質的に取り行った。また、理事会・評議員レベルでは、2009 年度に設置された「校舎建設小委員会」において、報告及び提案を行い、審議に付してきた。(下記 (1)に関連事項)

また、2008 年 10 月タイ国にて開催された「第 2 回 ABK 同窓生フォーラム」の決議の具体化を更に進めた。(下記(2)、(3)に関連特記事項)

なお、事務局維持のため下記の事業(5)の①、②、③、④を同時に行った。

### (1)校舎建設小委員会

2009 年度臨時理事会及び臨時評議員会(2009 年 9 月 29 日開催)の決議に基づき設置されたもので、本年度は下記の通り第 2 回～4 回の委員会を開催した。

〈第 2 回〉

と き：2010 年 5 月 6 日(木) 18:30～20:30

ところ：ABK101 研修室

出席者：委員 8 名中 7 名、監事 2 名中 2 名出席〔小木曾、山野井、西谷、中島、西原、(事務局委員)工藤、佃；是松、藪下〕

テーマ：1. 校舎建設の具体化について

〈第 3 回〉

と き：2010 年 7 月 1 日(木) 18:30～20:30

ところ：ABK101 研修室

出席者：委員 8 名中 8 名、監事 2 名中 1 名出席〔小木曾、山野井、西谷、山本、中島、西原、(事務局委員)工藤、佃；藪下〕

テーマ：1. 校舎建設基本計画の修正について 2. 新財団法人の役割・事業について

〈第 4 回〉

と き：2011 年 1 月 14 日(金) 18:00～20:00

ところ：ABK101 研修室

出席者：委員 8 名中 7 名、監事 2 名中 2 名出席〔小木曾、山野井、西谷、山本、西原、(事務局委員)工藤、佃；是松、藪下〕

テーマ：校舎建設の実施について

### (2) ABK 同窓生募金

ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てるため 2010 年 6 月より「ABK 同窓生募金」を開始した。目標額 5 千万円(1 口 1 万円)。募金対象者は、ABK 及び他の学寮同窓生、ABK 日本語コース同窓生、財団職員及び OG・OB、会員、並びに本募金の趣旨に賛同されるすべての方。

本年度の募金総額は、254 件、12,371,051 円。

〈募金に関する動向〉

- 1) 小木曾理事長が日本語教育セミナーで訪中の折、2009 年に設立された ABK 同窓会(中国)のメンバーと北京で交流懇親会を持ち、その席上、募金の説明・要請を行った。(2010/8/26)
- 2) 小木曾理事長が、ブラジル・サンパウロ同窓会元会長山内淳氏と東京で会い、募金の説明・要請を行った。(2010/10/28)
- 3) 小木曾理事長が、募金の説明の為タイ訪問(2010/10/31～11/5)、泰日経済技術振興協会、泰日工業大学、タイ ABK-AOTS 同窓会、ABK 同窓生有志の会等で説明会を行った。
- 4) 1970 年代の ABK 同窓生で構成される「ABK 同友会」の会合(第 9 回)が今年は香港・マカオで開催され、小木曾理事長が出席、募金協力への謝意と同時に今後の募金への取組みに関して意見交換を行った。(2010/11/11～14)
- 5) インド・ムンバイ同窓会会長 Mr. A. P. Wagle が、会員に募金を呼び掛けると同時に、AAAWI(AOTS Alumni Association of Western India)の会議の席上で、募金の呼びかけを行った。

- 6) インド・チェンナイ同窓会会長 Mr. M. R. Ranganathan が、会員に募金を呼び掛けた。
- 7) 募金推進のため、泰日経済技術振興協会主催、タイ ABK-AOTS 同窓会、泰日工業大学共催の「チャリティー・ディナー・トーク」が開催された。(2011/3/9 日(水)18:30~21:00 於、タイ・バンコク インペリアルクイーンズパークホテル)
- 8) マレーシアの ABK 日本語コース卒業生の有志 32 名が、連絡を取り合い、募金を集めた。
- 9) その他

### (3) アジア文化会館同窓生のホームページ及び同窓会、同窓生の動向

2008 年度事業で計画した「ABK アジアプラットフォーム」とタイ会議の決議を踏まえ、2009 年度に「アジア文化会館同窓会ホームページ」を立ち上げた。本年度は、下記の通りホームページに翻訳機能等の新機能の付加、ページ改修等を行い拡充させ、同窓生との交流を更に促進した。なお、ホームページの新機能の付加、改修、維持運営にあたっては、(財)東芝国際交流財団から助成金を得た。

- 1) 各ページに、簡略な翻訳機能を付加した。
- 2) 同窓生の動向及びアジア文化会館の現状並びに留学生の活動等を、リアルタイムで伝えた。
- 3) 当財団の機関誌『アジアの友』の海外送付中止に伴い、同窓会ホームページから海外の読者が購読できるようにした。
- 4) 同窓生募金で、同窓会ホームページを積極的に活用した。
- 5) アジア文化会館同窓会、同窓生の動向
  1. ABK 同窓生募金に関連して、同窓会、同窓生等の各種協力が行われた。(2)参照)
  2. インド・チェンナイ同窓会；ニュースレター発行他  
インド・チェンナイ同窓会は、2009 年に創刊した Web ニュースレター『e NIHON MON』の No. 4 ~7 を発行し、精力的な活動紹介を行った。
  3. 同窓生のグエン・ドク・ホエ氏(ベトナム)の設立した「ドンズー日本語学校」が 20 周年を迎え式典に小木曾理事長他 2 名が、参加した。(2011/3/13-16)
  4. その他

### (4) 協会創設者穂積五一先生を記念するコーナー

2009 年に ABK ロビーの一角に設置したコーナーに、本年度は先生関連の資料を入れ拡充した。

### (5) その他の事業

#### ①協会の会員管理並びに会費、寄付金、機関誌購読料の管理事務

#### ②(財)東芝国際交流財団からの受託事業

2002 年度から受託を開始した(株)東芝の生産技術短期研修生として(財)東芝国際交流財団が招聘するタイ国立チュラロンコン大学工学部大学院生の受入れは、2010 年度は 9 月に 2 名来日。招聘、来日時オリエンテーション他の技術研修前の一般研修(日本語、日本事情、都内見学等)及び来日から帰国までの日本滞在中のフォロー等の業務を受託、実施した。(滞在期間：9 月 3 日～11 月 30 日)

#### ③帯津良一先生気功講演会開催

1992 年から開始した帯津先生の講演会を 2005 年度より当記念事業委員会事務局が担当し、本年度も下記の通り実施した。講演会の年間テーマは『がんはともだち Part8 がんと養生』。なお、第 1 回から 89 回までの講演のテープ及び講演録である『ガンと気功と代替療法』(2001 年(株)スリーエーネットワーク発行)を希望者に頒布した。

実施日	演 目	参加者数
2010/5/13	第 85 回 がん治療の要諦は医療と養生の統合にあり	28
2010/7/8	第 86 回 気の養生一特に気功について	26
2010/9/16	第 87 回 天蒼蒼 野茫茫一新しき虚空に蘇る友情	38
2010/11/11	第 88 回 代替療法をもっとよく知ろう！	40
2011/1/20	第 89 回 養生の本質と心得	25
合 計		157

#### ④財団法人神林留学生奨学会の事業受託

2008年6月、(財)神林留学生奨学会の事務所が(株)カスミ内(筑波)から当アジア文化会館に移転したのに伴い、奨学会の事務局の仕事を全面的に受託したが、本年度も引続き同奨学金募集、採用、支給とそれに付随する奨学会の全業務を実施した。

### 6. その他の総務事項及び事業

#### (1) 総務事項他

1. 就業規則改定作業を行なった。
  2. 公益法人法改正による新財団への移行について検討した。
  3. 人事異動：勝尾秀和入職（2010年4月1日）、近藤昇退職（2010年6月30日）、道正美保退職（2010年8月30日）、酒巻彩乃入職（2010年10月1日）。
- なお、5月の食堂廃止に伴い、食堂職員が退職した。

#### (2) (社)日・タイ経済協力協会、泰日経済技術振興協会、泰日工業大学との提携

1. 本協会から、(社)日・タイ経済協力協会のパートナー団体である泰日経済技術振興協会（TPA）に日本語及びタイ語教育等各種協力を実施すると共に、日本語講師派遣を継続した。  
出向職員：吉田菜穂子（2007年9月10日～2011年3月28日）  
出向職員：秋元由美（2011年3月15日～2011年3月31日）
2. TPAが設立した泰日工業大学（TNI）に日本語講師を派遣した。  
出向職員：高坂千夏子（2007年4月1日～2011年3月31日）

#### (3) ドンズー日本語学校（ベトナム）との提携

ドンズー日本語学校にタイに赴任中の吉田菜穂子日本語講師が7月から11月まで毎月、ベトナムの日本語教師養成のためにベトナムを訪問した。

また、3月に開かれたドンズー日本語学校20周年記念式典に小木曾理事長、山田日本語コース事務長、町田教務主任が参加し、町田教務主任が研究授業を行なった。

以上